

平成 23 年度・出前講義の紹介

東北地質調査業協会
技術委員長 高野 邦夫

1. はじめに

東北地質調査業協会は、地域の地盤・地質に精通した技術者集団として様々な活動を行っている。技術委員会では会員の技術力向上のための活動、外部の講習会への講師派遣等を担当している。本稿では、平成 23 年度に仙台市立工業高校で地質調査に関する理解を深めてもらうために行った「出前講義」について紹介する。

2. デュアルシステム地域ものづくり人材育成事業に係る技術指導者派遣

仙台市立仙台工業高校からの依頼により、定時制課程と全日制課程の高校生を対象として 2 回の出前講義、実習を行った。

(1) 仙台工業高校定時制課程

建築土木科土木定時制課程コースの 1 年生を対象として 9 月 6 日に地質調査に関する講義、実習のために講師 4 名を派遣した。

筆者は、パワーポイントにより、①地質調査業はなぜ必要か、地震、津波などの自然災害とは、③地質調査業はどのようなことをしているか等についての講義を行った。今年は東日本大震災の津波被害が甚大であったことから、地震、津波について詳しく説明し、津波から助かるためには、とにかく地震直後に高台に非難するしかないことを強調した。

講義の後、グラウンドに移動し、テクノ長谷株式会社の御協力によりボーリング調査の実習を行った（写真 1~3）。

(2) 仙台工業高校土木科

土木科 1 学年を対象に、10 月 5 日に講義、ボーリング調査、表面波探査の実習のために講師 7 名を派遣した。講義は定時制課程と同じ内容で筆者が担当し、ボーリング調査はテクノ長谷株式会社、浅層反射法は応用地質株式会社が担当した。

ボーリング調査の講師は、仙台工業高

校の卒業生であるテクノ長谷株式会社の日野氏他 2 名が担当された。



写真-1 講義開始前の理事長のご挨拶



写真-2 講義の様子



写真-3 ボーリングの実習

ボーリングは、実際にグラウンドで掘削、コア採取、検尺、現場記録写真、土質コア観察法等についての実習を行った（写真 4~8）。

表面波探査は、応用地質株式会社の佐々木支社長他 2 名が担当され、グラウンドに測線を設定し、探査の原理、方法、

解析法等についての実習を行った。

定時制、全日制のいずれの学生さん達も講義、実習を熱心に受講され、グラウンドの地下に関する理解を深めてもらったものと考えている。彼らの中から地質調査業界に興味を持ち、当業界に就職する人材が輩出することを期待したい。

3. おわりに

高校へへの出前講義は地質調査業の認知度を上げるために毎年実施している。この出前講義を開催するためには、会員企業の御協力が不可欠である。本年度は東日本大震災の復旧業務で大変忙しい時期であったにも関わらず、快く御協力をいただいたテクノ長谷株式会社ならびに応用地質株式会社の講師の皆様、協会代表として挨拶を担当された早坂理事長に厚く御礼を申し上げる次第である。



写真-6 掘削されたコアと高校生



写真-4 グラウンドでの実習前に整列する高校生



写真-7 表面波震源の実習



写真-5 ボーリング実習の様子



写真-8 表面波探査のデータの確認